

平成27年度 学校評価表

江津東小学校

学校教育目標: 心豊かで明るくたくましい東っ子の育成

めざす子ども像: ひとにやさしくできる子(徳) がんばって学ぶ子(知) しんが強くたくましい子(体)

		中期経営目標	短期経営目標	達成のための方策	評価指標	目標値%	自己評価				結果と課題の説明	学校関係者評価		改善計画							
							アンケート					評	コ	メ	ン	ト	評	改	善	計	画
							教職員	児童	保護者	地域											
1	豊かな心づくり	人間尊重の精神に基づいた教育を推進する	人権・同和教育の充実	・教職員の研修(進路保障の取り組み) ・便り等による保護者への啓発 ・人権・同和教育に視点を当てた授業	教職員の研修を計画的に実施した。 人権・同和教育に視点を当てた授業を行った。	80%	100%	93%	88%	100%	A	・教職員への研修を計画的に実施することができた。 ・人権・同和教育に視点をあてた学習指導案を作成し、授業を行った。 ・保護者への啓発活動が荒天のため中止になったのが残念だった。	・児童が優しい心や友達とのつながりをもてるように、児童の実情に沿った内容、わかりやすい内容にするなど工夫してほしい。 ・教職員も同じレベルで人権意識を高めていってほしい。	B	・すべての授業において人権・同和教育を根底にすえた授業をめざす。 ・研修で高めた人権意識を日常でもいかしていく。						
2			よりよい生き方をめざす道徳教育の充実	・資料や題材の工夫と活用 ・道徳コーナーを設置する	道徳の時間と日常生活の連携を図った。	80%	100%	91%	89%	100%	A	年間指導計画に基づいて授業を実施した。	※すべてのA評価においては、今後も取組を継続して成果を上げていくことを期待している。	A	日常生活の中でさらに道徳的実践力が身につくようにしたい。						
3			特別支援教育の充実	・校内支援体制の充実 ・個別の指導計画、支援計画の作成 ・コーディネーター便りの発行(教職員、保護者向け)	個別の支援ができるように、特別支援教育コーディネーターと連携を図った。	80%	100%	91%	87%	100%	A	・保護者便り8部、教職員向けのたより7部作成した。 ・支援学級児童、通級児童は個別の支援計画、指導計画を作成した。 ・各担任とのケース会議、外部機関とのケース会議等何度も設けた。		A	・支援が必要な児童全員に個別の支援計画、指導計画を作成する。 ・支援員の先生方の配置の仕方を検討する。						
4			コミュニケーション力の向上	・人間関係構築力を学ぶ赤ちゃん登校日 ・伝え合いを意識した授業を積極的に取り入れる ・学級通信等で保護者へ啓発	伝え合う力の育成をめざした学習活動を取り入れ、コミュニケーション力の向上を図った。	80%	90%	84%	81%	92%	A	研究や学力向上の取組の中で、学び合う場を意図的に作った。	・赤ちゃん登校日は特色ある取組なので、学んだことが子どもの姿として現れるなどの成果を期待している。 ・コミュニケーション力をもっと児童につけていくことが大切である。	B	学級通信でも、コミュニケーション力の向上を図るための取組を紹介する。						
5	確かな学力づくり	基礎・基本の定着を図り、考える力を育成する	基礎的・基本的内容の定着	・東っ子チャレンジ会(漢字、計算) ・漢字、計算、書写タイム ・ウォーミングアップタイムの実施 ・放課後学習	データを取り、基礎・基本の定着を継続的に確認した。	80%	90%	87%	83%	/	A	・放課後学習の実施以外は目標を達成することができた。 ・3年生の放課後学習は常にクラブや委員会が入っており、ほぼ実施出来なかった。		A	授業の中でも放課後学習的なやり方を実施する。漢字、計算タイムのプリントを普段の授業の中でも活用してもらおう。放課後学習の曜日の設定を再検討する。						
6			魅力的で創造的な授業づくり	・粘り強く学び、思考力を高める学習 ・学習課題を明確にした授業づくり	思考力を高める授業を行った。学習課題を明確にした授業を行った。	80%	90%	90%	87%	/	A	めあて、振り返り、まとめをどの学級でも取り入れて授業を行うことができた。		A	今後も継続して取り組んでいく。						
7			図書館活用教育の充実	・読書指導の充実 ・司書教諭と連携した授業の実施 ・学級通信等で保護者へ啓発	1人あたりの平均貸出冊数 90冊 司書教諭と連携をとって図書館を活用した授業の回数(2回以上)	80%	91%	73%	/	/	B	目標冊数を達成できた。連携を図り、図書館を活用できた。		A	今後も、低学年から図書館利用の習慣作りを行う。						
8			家庭学習の定着	・家庭学習カードの活用(学年×15分) ・家庭学習の手引きの活用 ・学習課題の充実	(学年×15分)の達成率 80%	80%	90%	81%	60%	/	B	学習課題の充実のためのお手本となる自学ノートの掲示ができなかった。	・家庭学習は宿題だけでなく、自主学習もすることだということを児童や家庭と共通理解する必要がある。	B	自学ノートの掲示コーナーを設ける。家庭学習カードの提出の徹底を図る。						
9	たくましい体づくり	基礎体力の向上をめざし、健康で安全な生活をする	基本的な生活習慣の定着	・あいさつ、返事、はきものそろえ ・生活目標への位置づけ	あいさつや返事、はきものそろえができるようくり返し指導した。	80%	100%	92%	82%	93%	A	学校での実践が家庭への実践へと広がってきた。	・とくに地域でのあいさつが少ない。	A	今後も継続して取り組んでいく。						
10			体力づくりの推進	・体力向上推進計画の共通理解と徹底 ・しまねっこ元気アッププログラムへの参加 ・児童会活動との連携した活動の実施	しまねっこ元気アッププログラムでの記録が伸びた子の割合(80%)	80%	63%	60%	81%	/	C	しまねっこ元気アッププログラムの取組が遅れたので、年間を通しての取組ができなかった。	・例年Cだが、元気アッププログラムに固執しなくても、児童が楽しんで取り組めるように独自の種目を考えたり、プログラムを少し工夫して取り組んだらどうか。	C	種目の選定を早くし、一学期から取り組めるようにする。						
11			給食指導、食育の推進	・栄養教諭による食の学習 ・日常給食指導の充実	栄養教諭と連携した食の学習を計画し、実施した。	80%	91%	92%	85%	91%	A	食のノートに基づいて、栄養教諭と連携して授業を実施した。		A	今後保護者への啓発活動を行っていく必要がある。						
12			なかよし班活動の充実	・異学年交流で、交流する場を計画的に作る	・なかよし班で活動した回数(昨年度並み)	80%	90%	90%	90%	/	A	なかよし班で、交流する場作りができた。		A	今後も、計画的に継続する。						
13	信頼される学校づくり	家庭、地域との連携を密にし、よりよい教育を提供する学校づくりを進める	ふるさと教育の充実	ひと、もの、ことを活かした学習 ・各種校外学習、体験学習 ・生活科、社会科、総合的な学習	・地域のひと・もの・ことを活かした学習を行った回数(昨年度並み)	80%	100%	/	94%	100%	A	地域のひと・もの・ことの活用を積極的に行った。情報発信も行った。		A	今後も、地域のひと・もの・ことを活かした学習を継続する。						
14			積極的な学校公開の場、情報発信	・東っ子を語る会 ・授業公開日 ・各種便りの発行 ・学校評価の公表	積極的に学校公開の場をもった。学校だより、学級だよりを定期的に発行した。	80%	91%	/	92%	100%	A	・東っ子を語る会など保護者や地域の方が集まる機会に積極的に取組などを説明することができた。 ・学校だより、学級だよりは定期的に発行することができた。		A	東っ子を語る会や授業公開日は今年度同様に行う。たよりの内容をよりいっそう充実させる。						
15			保小中の連携の推進	保育園、中学校との計画的な連携 ・保育士体験 ・授業交流(外国語活動、算数等) ・連携担当者による情報交換	保育園や中学校との連携計画を立て積極的に実施した。	80%	91%	/	91%	100%	A	・5年生によるあさり、さくら保育園の園児との交流をもつことができた。 ・中学生と合同人権集会を実施したり、夏休みの学習会をもつなど新たな交流を実施することができた。	・小中の教員がお互いに児童生徒の様子を見合う機会をもっと増やしていくと思う。	A	保育園交流は5年生だけでなく、他の学年との交流も計画する。 ・人権集会は来年度も継続し、他の活動・連携も年度当初に計画を立てる。						
16			学校評価の充実、教職員評価システムの充実	・校内研修の充実 ・教職員の連帯感の高揚	積極的に研修に参加し、指導力の向上に活かした。	80%	91%	/	/	/	A	人権・同和教育を中心に計画的に研修をすることができた。	・研修したことを実際に指導にいかして、指導力を向上させていってほしい。	B	人権・同和教育について研修を充実させ、人権意識の高揚を図る。						

A: 目標値をすべて達成 B: いずれかが目標値を下回る C: 2つが目標値を下回る D: すべて目標値を下回る